

わがままな宝石たち 宝石のキャッチフレーズ・クイズ苑

エッセイスト 岩田 裕子

クイズA

宝石のキャッチフレーズ

神話や伝説から拾い上げたことばです。どの宝石をさしているでしょうか。

1. この石には、魔神が住んでいる。
2. 石の中に閉じ込められた炎が燃えている
3. ドラゴンのたまごから生まれた
4. 太陽の金属
5. 天国の金属
6. 太陽の加護を受けている石
7. ポプラの木の涙
8. 女神アフロディテの爪 ギリシャ神話
9. この石は月に恋をしているのだ
10. 天上の楽園に敷き詰められた小石
11. 人魚の涙
12. 大地に落ちた星のかけら
13. 大地を支える石



答え

1. 猫目石 ●キャッツアイの産地、スリランカの伝説です。
2. ルビー ●中世ヨーロッパの伝説。当時は、ルビーなど赤い石をカーバンクルと総称しました。
3. ルビー ●ミャンマーの伝説。3つの神秘的なたまごがあり、ひとつめから異教の王、ふたつめから中国の王様、3つ目からビルマのルビーが生まれたといわれます。
4. ゴールド
5. プラチナ
6. トパーズ
7. 琥珀 ●ギリシャ神話。アポロンの息子、パエトンが父の乗る太陽の馬車の操縦に失敗して、地上に激突したとき、パエトンの姉妹は、ポプラの木になって、琥珀の涙をながしたのです。
8. 瑪瑙 ●アフロディテが昼寝したときに、息子のキューピッドがその爪を切った空をとび、落とされた爪が瑪瑙になりました。

のキューピッドがその爪を切った空をとび、落とされた爪が瑪瑙になりました。

9. 月長石 ●中世の宝石書より
10. 11. 真珠
12. ダイヤモンド ●古代ギリシャの伝説です。
13. サファイア ●古代ペルシャの伝説。大地はこの石できていると信じられ、空が青いのは、大地の色を映しているからだといわれました。

クイズB

宝石をこよなく愛するのは、神に近い人々

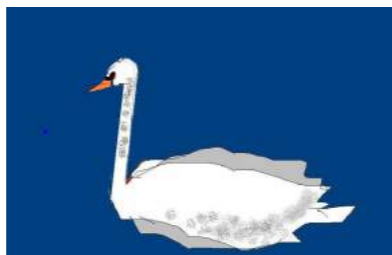
美しい宝石たちは、女神や女神に近い、美しさや威厳を備えた人々に愛されるのです。誰でしょうか？

1. エメラルド
2. 真珠
3. ラピスラズリ
4. ターコイズ
5. 翡翠
6. オパール
7. トパーズ
8. ファイヤ・オパール



答え

1. 美の女神アフロディテ ●金曜日生まれの人は、エメラルドに守護されているのです。



2. 月の女神アルテミス ●アポロンの妹。狩りが好きな女神です。真珠は月と縁が深いのです。
3. エジプトの主神オシリス ●冥界をつかさどる神 ラピスラズリは、冥界を青く美しく彩ります。
4. ネイティブアメリカンの女神 ●ターコイズは、サンタフェあたりのプエブロやナバホ族たちの護符でした。ターコイズの女神は、父なる大空と母なる大地の申し子で、妹は白蝶貝

の女神なのです

5. 越の国の女王 ●沼名川姫 古事記に登場する翡翠の女神です。「古事記」には、こんな恋物語があるのです。当時、越の国(今の新潟県)は、ぬながわ姫という聡明な女王におさめられていました。白い肌、翡翠の大珠を巻き、それはうつくしかったといひます。ある夜、出雲から大國主命が訪ねてきました。姫のうわさにあこがれて、情熱的にかきとどくたくましい大國主に姫もついに心ひかれ、ふたりは恋に落ちるのです。時間もとってしまうほどのしあわせ。しかしそれは、長くは続きませんでした。大國主には、正妻があり、その怒りにふれ、越の国は、出雲の属国にとされてしまったのです。姫の痛みはどれほどだったのでしょうか。このぬながわ姫こそ、翡翠の女王でした。このあたりが翡翠の産地だったから、越の翡翠は、大國主とともに、全国各地にちりばまりました。

6. サラ・ベルナル ●19世紀末に活躍した伝説の大女優です。サラが画家ミュシャにデザインを依頼した蛇のブレスレットがあります。クレオパトラに扮したときにつけられました。蛇の顔、鱗の体をもつ獣が、目の醒めるように青いオパールでできています。蛇の目は美しいルビー。アールヌーボーの傑作ジュエリーです。

7. タマラ・ド・レンピッカ ●アールデコを駆け抜けた美貌の画家レンピッカは、一時の恋人、当時の大詩人、憂鬱の美男として有名だったダナンチオに、この指輪を贈られるのです。タマラはこの指輪とともに、美を享受し、健康に恵まれた、ドラマティックな生涯をおくりました。

8. ナポレオン皇后ジョゼフィーヌ ●宝石好きのジョゼフィーヌは「トロイの炎上」という名の比類なきファイア・オパールを持っていました。この石のなかには、無数の遊色が火事のように燃えていた、といひます。

クイズC

文学に登場する宝石たち

宝石に魅せられるのは、女性や王様や盗賊だけではありません。日ごろ華やかさとは無縁の作家たちも、ペンという名の研磨剤で、いっそう石をみがきあげます。その宝石は、作家の個性とあいまって、さまざま光で、きらめいているのです。この表現は、どんな宝石をさしているのでしょうか？

1. たまごほども大きく、青い花のように青いのを。そのなかには、潮が流れ、月の光もその青さを消し去ることは出来まい。
オスカー・ワイルド
2. 野鳩のように桃色。これもワイルド
3. あの日、ふたりで眺めた夕焼けの色を、石にしたいと女は手紙を書きました。
寺山修司

宝石の美しさや魅力には抵抗できない。古今東西の詩人や学者や宗教家たちは、さまざまなことばで、その美の神髄を表現しようとしたのです。

宝石の魅力的なキャッチフレーズの数々を、今回、クイズにしてみました。

真夏のカフェタイム、冷たいスイーツを一口ずつ味わうみたいに、遊んでほしい、きらびやかなクイズたちです。

4. ひなげしの花や黄色のチュウリップ、薔薇や壺かずらなどが、一面かぜにゆらいだりしているようにみえるのです。
宮沢賢治

5. おとなしいスミレたちの魂。
モンゴメリ

答え

1. サファイア ●オスカー・ワイルド「サロメ」より。ヘロデ王は、こんな宝石をもっていると、義理の娘である、王女サロメに自慢したのです。
2. ピンクトパーズ ●これも「サロメ」より。これだけの宝石をやろう、とヘロデ王が提案しましたが、サロメが所望したのは、もっと恐ろしいものでした。
3. ガーネット ●「愛さないの愛せないの」より。寺山修司の描いた宝石は、幻想的できらびやか。
4. オパール ●宮沢賢治「貝の火」より。ウサギの子、ホモイは、鳥の王様から、こんな美しい宝石をプレゼントされるのです。
5. アメシスト ●モンゴメリ作「赤毛のアン」より。アンは、紫水晶に一目ぼれしてしまいました。彼女のなかで、アメシストは、ダイヤモンドにも、なににも負けないほど、価値の高い宝石です。



クイズD

宝石に愛された女たち

宝石に愛され、宝石三昧でこの世を終えた、希少な運命をだっただけ女性たち。これは誰でしょうか？

1. 自由奔放で、旅行好き。その生涯がミュージカルになり、21世紀の女性に大人気の美女とは？
2. ダイヤモンド・コレクターにして、琥珀のなかで暮らす女性とは？
3. 借金までして、贅沢な宝石類をあつめ、ついには命をおとってしまった美しい女性とは？
4. 最近、話題の展覧会が開催され、話題になった宝石好きの画家は。

クイズE

ある書籍の宝石たち

ある宝石書によると、それぞれの宝石は、こんなふうにとえられます。どんな宝石のイメージをこう表現したのでしょうか。

1. 雪の女王の緑の瞳
2. 悪と同じくらい華やか
3. ルビーの影武者
4. 星を食べた石
5. 睡蓮を浮かべて眠る池
6. 動物にたとえたら、うさぎみたい
7. 地球という青い星のまぶしすぎる心臓



答え

1. エメラルド ●豪奢で、空恐ろしいほどの美しさ。
2. ルビー ●真に美しいものは、悪にさえにているのです。ルパンの犯罪が華麗なのと同じように。
3. スピネル ●英国戴冠式用正王冠の中央についている黒太子は、長い間、ルビーといわれていたのですが、近年、スピネルと判明しました。
4. スタールビー&スターサファイア ●六条の星がくっきり。
5. 翡翠 ●まったりとした、東洋の緑です。
6. アクアマリン ●うさぎみたいなアクアマリンは、エメラルドの妹。同じベリル家に所属します。
7. ダイヤモンド ●地球の奥底に横たわるまぶしすぎる心臓

実は、これは、私が自分の書籍「夢見るジュエリー」や「冷たいジュエリー」で表現した、宝石たちのキャッチフレーズです。ことばをあやつり、目に見えない想像上の宝石を輝かせるのが私の仕事。興味を持ってくださった方は、私の著書を読んでいただけたらうれしいです。



岩田 裕子 (いわた ひろこ)

東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学文学部卒業(西洋史専攻)。編集者を経て、少女雑誌、ファッション誌などに記事を執筆。著書に「夢見るジュエリー」「ダイヤモンドA TO Z」(共に東京書籍)「21世紀の冷たいジュエリー」(柏書店松原)「恋するジュエリー スターが愛した宝石たち」(河出書房新社)など。

<http://www.geocities.jp/yamaneko1313/index.html>
(作品の紹介や日記も公開していますので、気軽にお立ち寄りください。)